

令和4年度 学校防災教育に係る気象台との懇談会 挨拶要旨

皆様にはお忙しい中、「学校防災教育に係る気象台との懇談会」にご出席いただき、ありがとうございます。

本年度の第1回目の懇談会を開催するにあたり、一言ご挨拶を申し上げます。

この懇談会は、当気象台が、気象や地震・津波等の自然災害の防止・軽減を目的とした普及啓発を学校の教職員や児童・生徒を通じて推進するにあたり、その課題や効果的な取組方法等について、有識者や学校関係者の皆様からご助言やご議論をいただくために、実施しております。

最近の自然災害を振り返ってみますと、今年の3月には、宮城県と福島県で震度6強を観測する地震が発生し、今月に入り、東北や北陸で大雨により河川が氾濫するなどの災害が発生しております。これらは決して他人事ではなく、北海道でも起こりうることです。また、今年2月の札幌圏の記録的な大雪により、交通や市民生活に大きな影響があったのは、記憶に新しいところです。

これらの自然災害から、児童・生徒の安全を確保するためには、一人一人が災害についての正しい知識を身につけ、自らの安全を確保するための行動がとれるよう、防災教育をより一層効果的なものとしていく必要があります。

また、国民・道民全体の防災意識の醸成という意味でも、特に義務教育段階での防災教育は非常に重要と考えています。大人相手の講演会の参加者は、もともと防災に興味のある方や防災意識の高い方の占める割合が高く、全ての方がまんべんなく参加されているわけではありません。義務教育段階で防災教育を行った場合には、長い目で見ると、国民・道民全体に防災意識・知識を普及することになります。

今年度は、新たに北海道教育大学札幌校の渡辺准教授、それから三里塚小学校の千葉校長に委員として加わっていただいております。これまで引き続きご参加いただいている委員の皆様方と共に、今の時代に即した防災教育に係る課題の解決や効果的な取組方法、安全知識を普及啓発するための取組の検討にお力添え賜りますよう、よ

ろしくお願い申し上げます。

本日は、限られた時間ではございますが、委員の皆様方には、防災教育を推進するための方策につきまして、忌憚のないご意見や活発なご議論をいただきますようお願いを申し上げます、簡単ではございますが開会のご挨拶とさせていただきます。

令和4年8月8日

札幌管区台長 青木 元